

林真理子・原作

(文藝春秋刊)

夫以外の男とのセックスは、どうしてこんなに楽しいのだろうか。

不機嫌な果実

南果歩・鷺尾いさ子・鈴木一真／鰐淵晴子・余貴美子・吉行和子／美木良介・根津甚八

監督・成瀬活雄／脚本・筒井ともみ●製作・松竹株式会社・株式会社東北新社クリエイツ／企画・シネマジャパネス／製作協力・株式会社CUC／配給・松竹株式会社

原作者 林真理子さんのことば

「美しい不倫を小説に描きたいと思った。

主人公の人妻は、慎ましくもなければ、罪の意識にとらわれたりもしない。

バブルの最中に青春時代をおくった彼女は、結婚することにより、急に自分の価値が下落したことに気づく。

そして『私だけが損をしているのではないか』という意識の下、恋の冒険を始めていくのである。

主人公の麻也子に嫌悪を示す男性は多かったが、女性からはたくさんの共感をいただいた。

私の中の女のイメージは、品があって知的で、現代的な美しさを持っている三十代の女性だ。

今回映画化するにあたって、びつりの女優さんが存在していた。

南果歩さんは、おそらく、男と女の愛、そしてもっと先にある、生きることの虚無を演じてくれるに違いない。」

成瀬活雄監督のことば

「麻也子という32才の女の子の辿る物語に、僕は人ごとではられない。

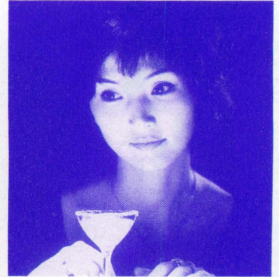
自分と同世代の女の子が“オヤジの不倫”の相手としてではなく、自ら人妻として不倫を重ねていく。

不倫という言葉には大人としての振るまい演じられる、男と女の秘事というステレオタイプのイメージが

あるけれど、そういう言葉の響きにフィットしない何か幼さのようなものを麻也子に感じてしまうのは、

同級生の女性へのひいき目にすぎないのだろうか。

とにかく、32才の“不機嫌”を、今、キャスト・スタッフと共に徹底的に描く作業に日々追われ続けている。」



不機嫌な果実

原作：林真理子(文藝春秋刊)/脚本：筒井ともみ/監督：成瀬活雄/製作：松竹株式会社・株式会社東北新社クリエイツ/企画：シネマジパネスク/製作協力：株式会社CUC/配給：松竹株式会社
南果歩・鷺尾いさ子・鈴木一真・鵜淵晴子・余貴美子・石原良純・吉行和子・美木良介・根津甚八

解説

「夫以外の男とのセックスは、どうしてこんなに楽しいのだろうか。」

その答を探すように主人公・麻也子是不倫を重ね、官能的なストーリーを綴っていく。現代女性のリアルな願望と、そのしたたかさ、そして大胆な性描写で、衝撃の問題作といわれた林真理子原作の「不機嫌な果実」がついに映画化されます。

主人公は、32才の水越麻也子。2つ年上の夫と結婚して6年。夫とのセックスも満たされず、精彩を欠く日常に「私って、損してるかもしれない」という思いにとらわれている。そんな「不機嫌な」彼女が、自分の満たされぬものは「性というパーツ」だと考え、夫以外の二人の男との不倫を楽しむ始める…。

そこには、夫に対する罪悪感とは存在しない。ただ自分の欲望を肯定して生きる現代女性の姿であり、「不倫」と呼ばれる「恋」の物語なのです。

自らの欲望のままに生き、不倫の楽しみを追い続ける主人公・麻也子には、フェミニンな魅力溢れる南果歩。麻也子の同級生で、男たちとつながっていく不思議な女性・キリコを、鷺尾いさ子がミスティアスに演じます。

男性陣は、麻也子が最初に不倫をする野村役に、大人の男の香りがする根津甚八。年下の恋人・通彦には、繊細でピュアなイメージの鈴木一真、そして麻也子の夫に、誠実なキャラクターには定評のある美木良介があたります。

監督は、名匠・篠田正浩のもと「写楽」「瀬戸内ムーンライト・セレナーデ」で豊かな表現力を学び、今回が初監督となる気鋭の新人・成瀬活雄。脚本は映画「失楽園」を大ヒットさせた筒井ともみが担当し、もう一つの不倫劇を現代女性のクールな視点で描きます。

女がからだを許すのは男と会う朝、下着を選ぶとき…不倫する女性の心理や駆け引き、そして濃密な情事のシーンを赤裸々かつ丁寧に描いた原作が、質感のある美しい映像と繊細な音楽で表現されていきます。この秋、すべての女性に贈る、大胆で綺麗(ピュア)なラヴストーリーです。



10月18日(土) 全ロードショー

特別鑑賞券 一般1500円/ペア券2800円発売中

有楽町・マリオン新館5F
丸の内松竹 03(3214)3366

紀伊國屋ビル3F
新宿松竹 03(3356)4881

道玄坂109階付 サ・プライム6F
渋谷松竹セントラル 03(3770)1990

六区映画街つきあたり
浅草松竹 03(3841)2646

上野駅不忍口前・西郷さん銅像下
上野松竹 03(3831)3136

近鉄デパート並び・西友前
吉祥寺松竹 0422(20)9750